

# 平成27年度スポーツの推進について

## 国の動き・社会経済情勢の変化

- ・平成30年の全国高等学校総合体育大会の開催
- ・平成32年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催
- ・平成33年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催
- ・国の「女性アスリート育成・支援プロジェクト」の展開

県の取組

平成33年の国民体育大会での天皇杯・皇后杯の獲得、さらには大会後の好循環をつくる  
(平成27年国体では、20位台を確保)

## 早急に取り組む課題

- 1 指導者の確保
  - ・優秀な指導者が少ない。
- 2 成年選手の県内定着
  - ・トップアスリートが本県に定着できていない。
  - ・チーム数が少ない。
- 3 女性アスリートへのサポート
  - ・平成28年国体以降の正式競技(種目・種別)への対応が図られていない。
  - ・女子の競技力が低い。(運動習慣の二極化)
  - ・結婚・出産・子育ての環境の中でスポーツから離れてしまう。
  - ・女性特有の身体的特徴における研究が開発の途上にある。
- 4 ジュニア・少年選手の育成・強化
  - ・平成30年度全国高等学校総合体育大会に向けた育成・強化が充分図られていない。

## 対応策(拡充または新規の主な事業)

- 1 指導者の確保
  - 【拡充】特別コーチ派遣事業
  - 【拡充】スポーツ指導員配置事業
- 2 成年選手の育成・強化の取組
  - 【新規】トップアスリート就職支援事業
- 3 女性アスリートへのサポート
  - 【新規】女性アスリートの競技力向上に向けた調査・研究事業
- 4 ジュニア・少年選手の育成・強化の取組
  - 【新規】H30インターハイに向けた強化事業、ジュニアクラブ強化活動支援事業(※)
  - 【拡充】中学校・高等学校運動部強化指定事業(※)、

※は、特定政策課題枠での要求事業ではない。